



みどりの風

令和2年6月1日発行
校報 第575号
〔みどりの風 第118号〕
練馬区立関町北小学校

学校再開

—子どもたちの生命・健康・心・時間を大切に—

校長 大野 泰弘

5月25日、長く続いた緊急事態宣言が首都圏でも解除されました。エッセンシャルワーカーと呼ばれる、医療従事者、公共交通機関の職員、スーパーやコンビニ、ドラッグストアの従業員、軽症者を受け入れている宿泊施設の方々をはじめ、私たちが日々の生活を営む上で欠かせない仕事に従事していらっしゃる多くの方々の献身のご努力、また、東日本大震災の時にも見られた互いに助け合い、困難を乗り越えていこうとする日本人の国民性などが、この日を迎えることにつながったのでしょうか。

そして、宣言の解除に伴い、まだ厳しい状況は続きますが、将来を生きる子どもたちの学校生活がようやく再開されることになりました。前年度の3月を含めて、およそ3ヶ月もの長い間、保護者、ご家族の皆様の温かい支えを受けながら、子どもたちは、学校に通うことができない、友達や先生と共に過ごし、遊んだり学んだりすることができない、そのような辛さ・ストレスに、よく我慢し、耐えてきたと労いの言葉をたくさんかけてあげたいと思います。

学校に通えるようになったからには、これからは、教育に携わる私たちが、子どもたちの心にしっかり寄り添い、保護者、ご家族の皆様の願いに応えることができるように、感染症予防に努めながら全力を尽くしていかなければなりません。

学校再開を前に、子どもたちを温かい心と笑顔で迎えるために、次のような思いを学年主任などに伝えました。

我が国の医師、看護師をはじめ、多くの医療従事者が、わが身、わが子、わが家庭の生命の危険を顧みることなく、必死の思いで感染症と戦い、今もなお努めていらっしゃいます。中には、自宅に帰ることなく車中やホテルで生活している方もいらっしゃると聞いています。2011年の東日本大震災後の原子力発電所の事故に際しては、全世界が称賛する「Fukushima50」という、生命をかけて放射能汚染に立ち向かった地元の発電所の方々がいっぱいいらっしゃいましたが、今回は医療従事者の方以外にも、全国各地で、高い使命感と勇気と愛情をもった多くの方々私たちの日々を支えてくださっています。

学校の再開が決まった以上、次は、私たちが子どもたちの教育を託された一人として、その使命感、子どもへの愛情をもって、この危機を乗り越えようとウイルスに立ち向かった人々のように、崇高な社会貢献意欲や人への思いやりをもった子どもたちを育てることができるよう、与えられた一日を大切にしながら教育活動を展開していかなければなりません。これからは、私たちが努力する番です。

子どもたちや保護者の皆様が安心して、本校に通う、通わせることができるよう、私たちにできることを精一杯実践していきたいと思います。これまでわが子の生命を守ってきたのは保護者、ご家族の皆様でしたが、これからは私たちも一緒になって、まずは、子どもたちの生命・健康と心を守っていくことになります。

子どもたちに、ウイルスと戦っている多くの方々の努力等を語る際には、心からの敬意と感謝の思いをもって話していきたいものです。そして、忍耐が求められる今を乗り越えさえすれば、子どもたち一人一人が、これからの新しい歴史、社会、文化を築いていく、その担い手となる時代が来ます。そのような歴史の大きな転換点を生きていく子どもたちの心の奥深いところに何か大切なことを留めていくことができるようにしていきたいと思います。そのために、自らの生命、周りの人の生命を守るための日々の忍耐が求められている、そのようなことを伝えていきたいものです。

ICTなどの根拠の不明な情報に惑わされるのではなく、真実の言葉を自分の心の奥底に紡ぎ出し、自己を深く見つめ、生命あることへの感謝、周りの人々への感謝、他者への思いやりや尊重、そして、よりよい生き方、人としての在り方などを探究していく時間にしていきたい。与えられている時間は限られているけれども、上辺だけの軽い言葉ではなく、心が揺れ動くような言葉を心につなげ、子どもたち一人一人にしっかり寄り添っていく時間にしていきたいと思っています。

新型コロナウイルスとの戦いが終わったわけではありません。緊急事態宣言の解除で新しい生活様式を実践していくスタート地点に立ったに過ぎません。

学校に勤務する一人として、緊張感をもって、できうる限りの感染予防に努めながら、子どもたち一人一人の人格形成、学力・体力向上のために力を尽くしてまいります。あらためて、保護者、地域の皆様のご理解、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。